



令和6年12月17日発行

学校だより

第12号

江戸川区立松江第三中学校

〈 教育 目 標 〉

- 1 素直で明るい、心豊かな生徒を育てる
- 2 自ら進んで、よく学びよく働く生徒を育てる
- 3 責任を重んじ、正義と規律を尊ぶ生徒を育てる

～ “ふてほど”から ～

校長 小澤 託

2024年「新語・流行語大賞」は、民放のテレビドラマの「不適切にもほどがある！」を略した「ふてほど」が選ばれました。昭和から令和の時代にタイムスリップした主人公の価値観の違いに戸惑いながら奮闘する姿は、当時を知る私のような世代からみれば、当方が懐かしくもあり主人公に共感を憶えるところもあり、笑いながら(何も考えずに)観ることのできたドラマだったような気がします。

一方、今の若者たちの目には、どう映ったのか、も興味があるところですよ。おそらく、若者と言っても、年代(30代・20代・10代)によって感じ方もとらえ方も違うだろうし、もしかしたら、10代の中学生には、訳が分からない部分がたくさんあったのではないかと思います。想像してみると、私が小さな頃(昭和)、ご年配の元気な方が明治や大正時代の話をしても、想像ができないことがたくさんありました…。その状況と同じだと考えれば、今を生きる中学生に、“昭和ありえない”と言われてたり、思われたりしても仕方のないことかもしれません。

時代の変化とともに価値観や考え方が変わるの、このドラマでも感じるのですが、時代が変わっても、変わらないものや大事にしたいものは変わらないような気がするの、私だけでしょうか。今でこそ、一人一台端末を持って(スマホなども含め)、いつでも連絡を取りあい、逐一世の動きを察知するために情報が収集できる。ネットで注文した商品や食品が数時間後には自宅に配達され、映画館に行かずとも海外の作品をテレビで楽しめる…。便利になり、変わったものはたくさんありますが、“面と向かって人と話す”“自分の考えや思いを、顔を見て伝える”といった、直に会ってコミュニケーションを取る大切さ、は時代が変わっても、変わらない大事なことだと私は思います。コロナ禍を過ごしたからこそ、もありますが、どの時代のドラマや番組も、家族で本音をぶつけ合っているシーン、友達や先生、同僚や仲間と本気の話でぶつかり合っているシーンに思わず見入ってしまうのは、ドラマと現実を重ね、自分と置き換え、良いなあと思っているからなのでは、とってしまいます。現に私もそう思うことがあります…。

「不適切にもほどがある！」の脚本を担当した宮藤官九郎さん(映画監督もしています)は、今まで「あまちゃん」や「ゆとりですがなにか」などの作品の脚本を担当したことで有名です。ある雑誌のインタビューで、彼はこう言うておりました“自分のやりたいことを全部入れたうえで、「一貫して何か言っているらしい、この作品は」というぐらいの作り方でいいかな、と思っているんです。意味はそっち(視聴者)で考えて、という感じ“

完全にその意図に乗せられていたんだな、と思いながら、改めて、人とちゃんと向き合って話し、思いを伝える(聞き入れる)などのコミュニケーションを大事にしなければ、とってしまいました。

【オスロの表彰式から】

皆さんの中に、12月10日（火）の午後9時30分ごろからノルウェーの首都オスロで行われたノーベル平和賞の授賞式を見た人はいますか？

私は、日本被団協を代表して受賞スピーチを行った田中さんの言葉を最初から最後まで聞きました。“戦争は絶対だめだ。これから生きる人たちのためにも、核兵器を使うことが許されるような世界にはいけない。”と心から思いました。

冒頭、長崎での被爆の様子をこう語りました「一発の原子爆弾は私の身内5人を無残な姿に変え一挙に命を奪った。その時目にした人々の死にざまは、人間の死とはとても言えないありさまでした。」祖父は骨が見えるほどの全身に大やけどを負い、伯母やいとこは炭のように真っ黒になって転がっていた…。

そんな地獄絵図のような場面を想像できますか？ もし、戦争が起こったら？ もし、原子爆弾のような核兵器が使われる世界になったら？ もし、自分の大切な人がそんな死を迎えたなら？ 様々な授業で、戦争の恐ろしさや悲惨さは取り上げられ、頭では理解しているはずで

す。しかし、なかなか現実のものとしてとらえ、想像するのは難しいはずで

す。（私も含めて）

だからこそ、平和の大切さを学び、その中で自分はどう生きていくべきなのか。一日をどう

過ごすべきなのかを真剣に考えることが大切なのではないでしょうか。

世界には、食べること、生きることによって精一杯の人がまだまだたくさんいるのです。地球市民という言葉がありますが、地球に生きる一人の人間として、考えてみませんか？

「平和」とは何か…を

蛇足ではありますが、毎年、京都の清水寺で発表される「今年の漢字」を巨大な和紙に揮毫

する森清範^{せいはん}貫主は、いずれ書いてみたいと思う漢字があるそうです。

平和の「和」

近い将来、書ける日が来ることを地球市民全員で築かねば…

～保護者・地域の皆様へ～

12月も後半に入り、あと1週間もすると2学期も終了となります。

無事に2学期を過ごすことができたのは、生徒の皆さんの頑張りに加えて、保護者・地域の皆様のご理解とご協力のおかげだと思っております。心より感謝いたします。

さて、終業式を終えると年末年始が間に入る冬季休業となります。受験を控える3年生にとっては、追い込みの期間となり、進路実現に向けて気が抜けない時季となります。インフルエンザや風邪など引かぬよう健康に留意して過ごすようにしてください。1,2年生にとっては、お正月の様々なイベントを楽しんだり、旅行などに行ったりする人もいるかもしれません。家庭でゆっくり過ごすことのできる大切な時間だと思います。有意義な時間になしてください。

それでは、3学期もよろしくお願いたします。

良いお年をお迎えください。